

銀杏坂

～輝く薩摩中央～

令和6年2月14日（水） 南日本新聞

能登半島地震で集団避難している中学生の学習支援に派遣された本校の小林教諭（英語）の活動報告が、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

中学生100人の学習支援



石川県での学習指導支援について報告する小林伸一
＝13日、鹿児島県庁
教諭（中央）

避難先派遣 教諭が活動報告

能登半島地震と 鹿児島

能登半島地震で集団避難している中学生の学習支援に当たるため、鹿児島県教育委員会が石川県へ派遣していた教員が13日、鹿児島県庁で活動報告した。慣れない共同生活を送る生徒たちと接し「表面上は元気そうだったが、受験を控えている焦りもあったと思う」と振り返った。

派遣されたのは薩摩中央高校の英語教諭、小林伸一さん（48）。石川県白山市の白山青年の家で5～9日の5日間、輪島市から親元を離れて生活し、授業も受ける中学3年生約100人の学習支援に当たった。小林教諭は現地の教諭による英語の授業を補助し、代わりに授業することもあったという。「自身も被災し、疲労を隠せない先生もいるようだった。学校生活

と私生活が一緒になった環境で、メリハリを付けて指導する難しさがあるように感じた」と地頭所恵教育長に報告した。

その上で「災害は誰にでも、どこでも起こり得ること。自分事として考える機会になった」と述べた。

（藤本わか）